

学校（園）名：中央区立月島第一幼稚園 所在地：中央区月島4-15-1

校（園）長名：嶺村 法子

児童（生徒）数 154 学級数 6 教員数 8 職員数 23

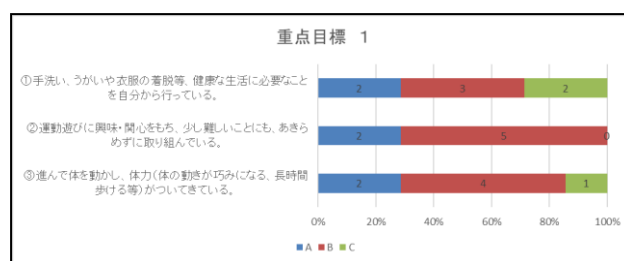
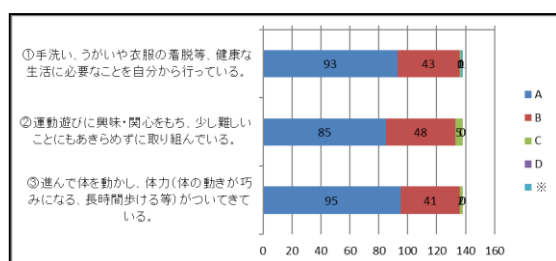
### 1 重点目標の達成状況及び取組状況

- 令和3年度2月現在、在籍数154名、有効回答数138 回収率89%であった。以下、%の値は有効回答数中の割合である。
- 評価の尺度は、A：十分達成している、B：達成している、C：改善を要する、D：緊急に改善を要する、※：わからない である。

#### 重点目標 I

##### ◇保護者評価

##### ◆教員評価



#### <達成状況・取組状況>

##### ○評価項目①「基本的生活習慣の定着」について

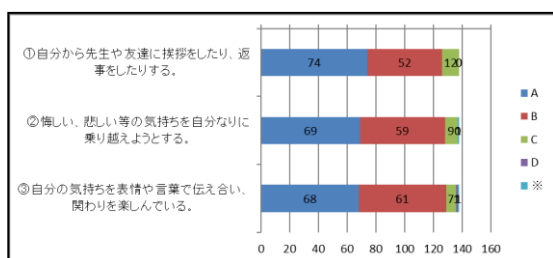
- ・生活習慣について、保護者評価がA、B合わせて98%となっており、コロナ禍において手洗いやマスクの着用等の生活指導を丁寧に行ってきた成果が出ていると言える。
- ・教職員の自己評価では、評価をCとした教員が2名おり、「濡れないように袖をまくる」「園バッグのチャックを閉めてフックに掛ける」等、園生活に必要な基本的な生活習慣について、いつまでどの程度身に付けさせるか、そのためにどのように指導するかが、細かい部分まで共通にしにくいことが課題であると感じていた。

##### ○評価項目②「運動遊びへの意欲」、評価項目③「体力の向上」について

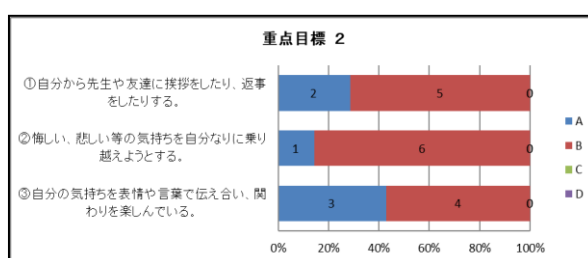
- ・保護者評価では、「運動遊びへの意欲」に対してC評価を付けている保護者が5名おり、教員評価との間にギャップがある。低い評価の理由として、幼稚園公開がほとんどできない中で、保護者が「少し難しいことにもあきらめずに挑戦」している姿を見る機会が減り、園での我が子の姿を評価しにくかったこと、挑戦している姿や成長が見られたことについての発信が不足していたこと、の2点が考えられる。
- ・戸外遊びを充実させるために、全学年が、小学校の給食時間や体育のない時間に校庭を活用しているが、幼児一人一人が十分に体を動かし発達に必要な経験を積み重ねられるようにするためには、広い校庭の中央、園庭エリア、固定遊具、砂場等の場所で、どの時期に、どのような遊びの環境を提示するか、各学年の指導計画を見直し、限られた時間をより有効に活用していく必要がある。

## 重点目標Ⅱ

### ◇保護者評価



### ◆教員評価



### <達成状況・取組状況>

#### ○評価指標①「あいさつの励行」について

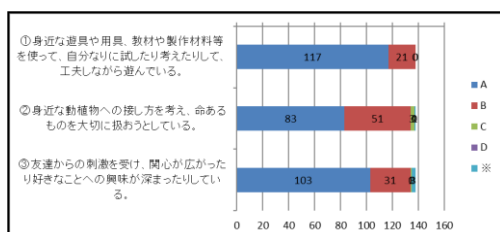
- ・3つの重点目標の中で、重点目標Ⅱの評価が最も低かった。中でも、①は保護者のC評価が多く、成長を感じている教員の評価との間にギャップがある。教員は、学級の幼児が挨拶や返事ができるようになったと感じているが、保護者は12名がC評価となっている。
- ・登降園時に、園長や主任が玄関で挨拶し、それに対して元気に答えたり、自分から挨拶をしたりする幼児は確実に増えているが、保護者が我が子の成長を実感できるよう、より細やかに保護者に発信していく必要がある。また、家庭内での返事や挨拶に関しては、保護者自身が手本となり、気持ちのよい挨拶が交わせるよう、保護者会や学級懇談会等を通して呼びかけていく。

#### ○評価指標②「葛藤する気持ちの調整」、評価項目③「気持ちの伝え合い」について

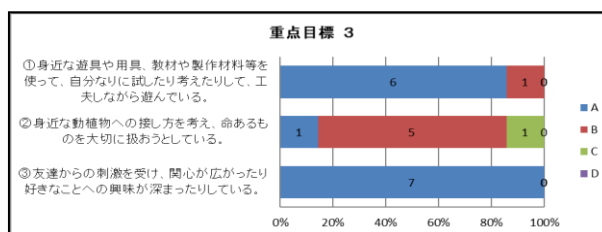
- ・保護者評価で、評価指標②は9名、評価指標③は7名がC評価を付けており、教員の評価とギャップがある。評価指標の「自分なりに乗り越えようとする」という文言が、年少組の保護者にとっては高い目標に感じられ、我が子の姿からは評価しにくかったのではないかと分析した。
- ・それぞれの学年で、葛藤する内容も変容していくこと、具体的な葛藤場面での様子やそれらをどう自分なりに乗り越えたかを降園時や学級便りを活用して保護者に伝え、子どもたちの成長を共有していきたい。

## 重点目標Ⅲ

### ◇保護者評価



### ◆教員評価



### <達成状況・取組状況>

#### ○評価項目①「試行錯誤する楽しさ」、評価項目③「集団での切磋琢磨」について

- ・重点目標Ⅲに関しては、3つの重点目標の中で一番A、B評価の割合が高かった。特に評価指標①に関しては、保護者、教職員共にC評価がおらず、A、B評価で100%を達成した。これは、園内研究「わくわくしながら遊ぶ幼児を育てる～みんなが経験する製作活動と好きな遊びのつながりを生かして～」で製作に関する教材研究を教職員全体で行ったことや、研究内容について玄関掲示やホームページ等で保護者に積極的に発信してきた成果であると考えられる。

## ○評価項目②「動植物からの豊かな学び」について

- ・保護者のC評価も3名おり、教員も、今年度の反省を来年度に生かして改善していく必要を感じている。教員自らが、飼育や栽培をするねらいを明確にもち、幼児と一緒に世話をすることで、発見や感動を共有しながら、幼児の豊かな学びにつなげていきたい。
- ・幼児と一緒に飼育方法を調べ、必要な環境を整えて幼児と一緒に世話をすること、月一園での栽培については、場所が離れており、栽培物の生長が幼児の目に触れにくいため、水やりや草抜きなど栽培に必要なことを定期的に行うことが課題として挙げられた。

### 2 重点目標以外の自己評価における達成状況及び達成のための取組状況

#### <達成状況・取組状況>

- ・設問3「教職員は幼児をよく理解して指導にあたっている」に対して昨年度の評価ではC評価が5名いたのに対し、1名にまで減少した。降園時に幼児の様子を保護者に伝え、コミュニケーションを意識的に図ってきた成果と考えられる。
- ・設問12、設問15の情報提供や保育内容の公開に対して、C評価が5%程度いた。

### 3 今後の改善方策

#### <重点目標Ⅰに対して>

- ・3年間で身に付けさせたい基本的な生活習慣について、学年毎に【技術・技能】に焦点をあてた。チェック項目を作成し、確実に身に付けさせることができるよう、指導を積み重ねていく。
- ・挨拶や園内での生活習慣について、教職員が学年毎の目指す姿を共通理解し、同じ方向を向いて保育ができるようにする。

#### <重点目標Ⅱに対して>

- ・校園庭を有効に活用するために、次週の週案を作成する前に、週打ち合わせ等で、各学年が使いたい場所や時間、ねらいや活動内容について出し合い、調整した上で週案を立て、経験させたい内容を全教職員で共通理解して進められるようにする。
- ・教職員間で、学年毎に「気持ちを調整する姿」を定義し、共通認識とし、指導する。保護者に対しても、学年毎の目指す姿を分かりやすい言葉で示し、評価しやすくする。

#### <重点目標Ⅲに対して>

- ・全教職員で教材研究を継続して行い、その学年にふさわしい教材を提示することで、一人一人が試行錯誤する楽しさを味わえるよう援助する。また、園内研究の内容に関して今年度以上に保護者に発信し、研究を通して教職員一人一人が学んだ内容や、その学びがどのように幼児の育ちにつながったか、研究の成果についても伝えていく。
- ・保育室での飼育や、野菜等の栽培を通して、生命の尊さや慈しむ気持ちを実体験をもって経験していくことが大切である。教職員間で、何を体験させるために飼育を行うのかを、今一度共通にし、そのための手立てを一人一人が考えられるようにする。

#### <Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ共通>

- ・重点目標に沿った幼児の姿を学級便り、降園時の話、ホームページ等の様々なツールを活用して保護者に発信し、幼児の育ちを教職員と保護者が共有できるようにする。

<重点目標以外の評価に対して>

- ・保護者一人一人とのコミュニケーションを大切に、保護者から信頼される関係を築くことで幼児の育ちを支え、成長を共に喜び合いながら子育てを支援していく。
- ・来年度より配置されるタブレット端末を活用し、直接体験を補完する教育内容を工夫するとともに、保護者や地域への発信方法を工夫し、教育成果を共有できるようにする。
- ・未就園児の保護者が知りたい情報にアクセスできるように発信方法を工夫し、区立幼稚園の教育に関心を高め、入園児数の増加につなげる。